

## “この人なら…”

今回も、プロ野球の話になります。日本シリーズに“みんなの声援賞”があります。日本シリーズ期間中にX（旧ツイッター）上で最も多くの応援をされた選手1人が選ばれるものです。今回は、阪神タイガースの大山選手でした。

大山選手は、2016年にドラフトで1位に指名されました。指名されたとき、会場からはどよめきがおこり、何で大山なの？という空気が流れました。ドラフト会議の次の日の新聞では、阪神のドラフト指名に対する評価が12球団で最低の点数でした。それを知った大山選手は、その年に阪神にドラフト指名された選手一人一人に「自分のせいで嫌な思いをさせてしまい申し訳ない」と謝ったそうです。

そして、今年、1年間、シーズンもCSも日本シリーズも全て4番ファーストで出場し、見事日本一に貢献しました。4番バッターにしては、ホームランも少なく、他のチームのような派手な活躍はそれほどありませんが、四球リーグ1位、出塁率リーグ1位、ファーストまで常に全力疾走する選手です。

春のキャンプで監督が誰を4番にしようか迷っていた時に決め手になったのが、大山選手の周りには常に人（選手）が集まっているところを見たことです。先輩、後輩、野手、投手関係なく大山選手の周りには必ず何人も人がいたようです。これで監督が、大山なら万が一チャンスで打てなくて、負けても、チームメイトは仕方がない（大山がダメなら仕方がない）と思うだろうと考えたそうです。実際、大山は良く練習をし、常に全力でプレーをします。監督から完全なアウトならファーストまでそんなに全力で走らなくても・・・と言われたこともありましたが、大山選手は、どんな時も全力で走っていました。そういう姿をチームメイトも見てよく知っていたので、チームからは絶大なる信頼があったのです。実際、監督のこの判断は正しく、日本シリーズでもチャンスで打てなく、負けた時も、次の試合にその負けを引きずることはありませんでした。また、ファーストまで全力で走ることでいくつもチャンスを広げました。

今年の阪神にとって「大山選手でダメなら仕方がない」という流れになっていました。その分、大山選手には、想像もつかないプレッシャーがあったと思いますが、最後までしっかりとやり切り、大山選手らしい“みんなの声援賞”を受賞しました。

どうでしょうか？皆さんの周りにそんな人はいますか？皆さん自身は、そう思われるような頑張りができていますか？

前回の“この人だから”と今回の“この人なら”をプロ野球のことを例に書きました。どちらにも共通しているのは、『信頼』です。そして、口ではなく行動で『信頼』を得ていることです。この2つは自分が目指している永遠の目標です。皆さんは、いかがでしょうか？